



RUX-4280

リモートアンプコントロールセンター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前に必ずお読みください。

この取扱説明書は、いつも手元に置いてご使用ください。

安全のために必ずお守りください

- ご使用の前に、この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後も、説明書を手元に置いてご使用ください。説明書の指示を守らなかったことによる不具合に対して、当社は責任を負いかねます。
- この説明書は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

ネジなどの小物類は、幼児の手の届かないところに保管してください。飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。



車以外には使わないでください。感電・ケガの原因になります。



禁止

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

運転中は操作をしないでください。事故・ケガの原因になります。操作をする場合には、安全な場所に停車してください。



禁止

車外の音が聞こえる音量でお使いください。事故・故障の原因になります。



運転中はディスプレイを見るのを最小限にする。走行中にディスプレイを見ていると前方不注意となり、事故の原因になります。



禁止

分解・改造をしないでください。事故・火災・感電の原因になります。



禁止

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

音や表示が出ない、異物が入った、煙が出る、変な臭いがしたときには、ただちに使用を中止して、お買い上げ店に相談してください。事故・火災・感電の原因になります。



禁止



強制

取り扱い上のご注意

- 本機の近くでは携帯電話や無線機を使わない
雑音や誤動作の原因になる場合があります。電話や無線機は、本機から離れてご使用になることをお勧めします。また、リモコンスターターも誤動作の原因になる場合があります。

お問い合わせはインフォメーションセンターへ

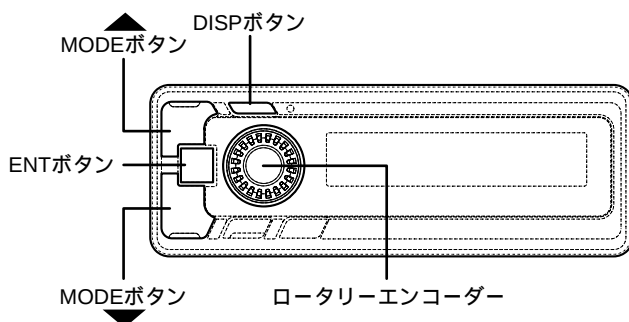
- 〒141-8501 東京都品川区西五反田1丁目1番8号
- FAX: 03-3494-1767 TEL: 03-3779-0711
- 電話受付時間 土日祝日を除く 9:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
- 電話は混雑が予想されます。FAXかハガキをおすすめします。
- アルパインホームページ: <http://www.alpine.co.jp>

アルパイン株式会社

Designed by ALPINE Japan

Printed in Korea (S-469)

68P02294K27-0



基本操作

INFO DISPモードにするには

INFO DISPモードにより、アンプ側の電圧、電流、および温度（華氏および摂氏）を表示できます。

- 1 DISPボタンを押します。
・押すごとに、表示が切りかわります。

→ 電圧 → 電流 → 華氏温度 → 摂氏温度 →

< 表示例 >

13.4 v

2.9 A

87 °F

31 °C



Memo

- コントロールセンター特有のモード（BASSコントロール、アンプセレクト、アンプネーミングの各モード）の場合は、DISPボタンを押すと、アンプ本体側のモードが優先され、そのモードに移行します。

BASSコントロールについて

ロータリーエンコーダーを回すことにより、BASSのレベルを調整できます。

- 1 DISPボタンを押して、INFO DISPモードにします。
- 2 ロータリーエンコーダーを回して、BASSのレベルを調整します。

- ・ 右に回す → レベルがアップします。
- ・ 左に回す → レベルがダウンします。

LEVEL 5

- ・ 調整範囲：LEVEL 0 ~ 11

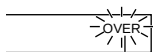


Memo

- ロータリーエンコーダーを回さない場合、5秒後に自動的にアンプ本体側のモードと同じモードに移行します。

INPUTレベルを調整するには

- ヘッドユニット側の準備作業：
 - あらかじめ、ヘッドユニットからの入力レベルをセッットします。
- (1) ヘッドユニットの音量を上げていき、「OVER」インジケーターを点灯させます。



OVER インジケーター

- (2) ヘッドユニットの音量を徐々に下げ、「OVER」インジケーターを消灯させます。
- (3) 再び、ヘッドユニットの音量を徐々に上げ、「OVER」インジケーターが点灯したポイントで止めます。
- 調整中は、このポイントから動かさないでください。

- MODE▼/▲ボタンを「INPUT」と表示されるまで押します。

INPUT

- ENTボタンを押します。
 - 「SELECT」と表示されます。

- ENTボタンを押します。

- ロータリーエンコーダーを回します。回すごとに、モードが変わります。

→ CH1 → CH1+CH2

CH1

- ENTボタンを押します。
 - 「INPUT LV」と表示されます。

INPUT LV

- ENTボタンを押します。

- ロータリーエンコーダーを回して、INPUTレベルを調整します。
 - 右に回す→レベルがアップします。
 - 左に回す→レベルがダウンします。

-6 dB

・調整範囲：

MRD-M500: - 24 ~ 0dB

MRD-M300: - 18 ~ 0dB



- 調整範囲は、組み合わせるアンプにより異なります。

ローパスフィルターを調整するには

- MODE▼/▲ボタンをディスプレイに「LOW PASS」と表示されるまで、押します。

LOW PASS

- ENTボタンを2回押します。

- ロータリーエンコーダーをディスプレイに「ON」と表示されるまで、回します。

ON

- ENTボタンを2回押します。

- ロータリーエンコーダーを回して、ローパスフィルターの周波数を調整します。

- 右に回す→周波数がアップします。
- 左に回す→周波数がダウンします。

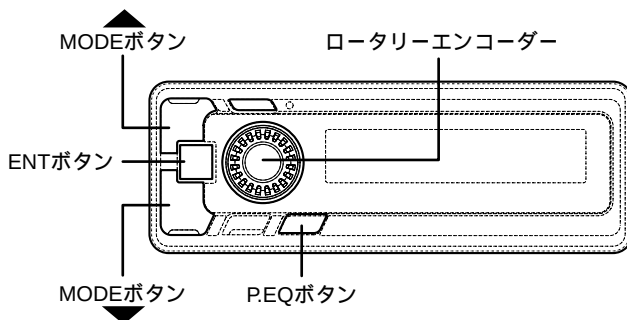
90 Hz

・調整範囲：30 ~ 200Hz

- ENTボタンを押します。



基本操作



サブソニックフィルターを切りかえるには

サブソニックフィルターにより、超低域の音をカットできます。スピーカーの駆動ロスを軽減し、スピーカー破損も防止できます。

- 1 MODE▼/▲ボタンを「SUBSONIC」と表示されるまで、押します。

SUBSONIC

- 2 ENTボタンを2回押します。

- 3 ロータリーエンコーダーを「ON」と表示されるまで、回します。

ON

- 4 ENTボタンを2回押します。

- 5 ロータリーエンコーダーを回して、サブソニックフィルターの周波数を調整します。

- ・ 右に回す→周波数がアップします。
- ・ 左に回す→周波数がダウンします。

35 Hz

・ 調整範囲：15Hz～50Hz

- 6 ENTボタンを押します。

位相を切りかえるには

- 1 MODE▼/▲ボタンを「PHASE」と表示されるまで、押します。

PHASE

- 2 ENTボタンを2回押します。

- 3 ロータリーエンコーダーを回します。
 - ・ 回すごとに、表示が切りかわります。

0° → 180°

180

- 4 ENTボタンを押します。

パラメトリックイコライザーを調整するには

- 1 P.EQボタンを押します。または、MODE▼/▲ボタンを「P-EQ」と表示されるまで、押します。

P-EQ

- 2 ENTボタンを2回押します。

- 3 ロータリーエンコーダーを「ON」と表示されるまで、回します。

ON

- 4 ENTボタンを2回押します。

- 5 ロータリーエンコーダーを回して、パラメトリックイコライザーの周波数を調整します。

- ・ 右に回す→周波数がアップします。
- ・ 左に回す→周波数がダウンします。

100 Hz

- ・ 調整範囲：30Hz～160Hz

- 6 ENTボタンを2回押します。

- 7 ロータリーエンコーダーを回して、パラメトリックイコライザー幅（Q）を調整します。

- ・ 右に回す→イコライザー幅（Q）がアップします。
- ・ 左に回す→イコライザー幅（Q）がダウンします。

3

- ・ 調整範囲：

MRD-M500:Q = 0.5 ~ 5

MRD-M300:Q = 1 ~ 3



- ・ 調整範囲は、組み合わせるアンプにより異なります。

- 8 ENTボタンを2回押します。

- 9 ロータリーエンコーダーを回して、パラメトリックイコライザー周波数のゲインを調整します。

- ・ 右に回す→ゲインがアップします。
- ・ 左に回す→ゲインがダウンします。

-10 dB

- ・ 調整範囲：

MRD-M500: - 12dB ~ + 12dB

MRD-M300: - 10dB ~ + 10dB



- ・ 調整範囲は、組み合わせるアンプにより異なります。

BASS COMP.モードにするには

- 1 MODE▼/▲ボタンを「COMP.」と表示されるまで、押します。

COMP.

- 2 ENTボタンを2回押します。

- 3 ロータリーエンコーダーを「ON」と表示されるまで、回します。

- 4 ENTボタンを押します。

TCR(タイムコレクション)を調整するには

- 1 MODE▼/▲ボタンを「TCR」と表示されるまで、押します。

TCR

- 2 ENTボタンを押します。

- 3 ロータリーエンコーダーを「ON」と表示されるまで、回します。

ON

- 4 ENTボタンを押します。

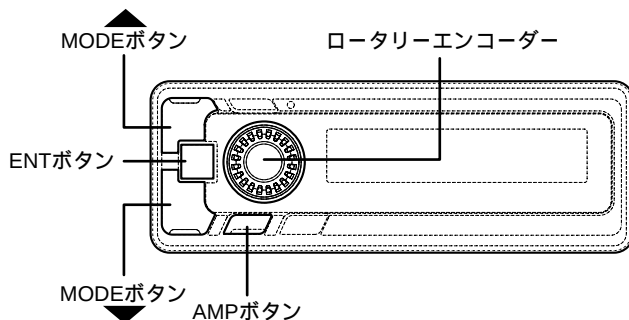
- 5 ロータリーエンコーダーを回して、TCRディレイタイムを調整します。

- ・ 右に回す→ディレイタイムがアップします。
- ・ 左に回す→ディレイタイムがダウンします。

9.5ms

- ・ 調整範囲：0.0ms～10.0ms

- 6 ENTボタンを押します。



メモリー機能を使うには

各種の設定内容をアンプ本体側のEEPROM へ、書き込みます。また、読み出しも可能です。

EEPROMとは：

電源がOFFになっても消えることのない、不揮発性メモリーのことです。

- メモリーに書き込むには

- 1 MODE▼/▲ボタンを「MEMORY」と表示されるまで、押します。

M E M O R Y

- 2 ENTボタンを押します。

- 3 もう一度、ENTボタンを押します。
 - ・「WRITE」と表示されます。

W R I T E

- 4 ロータリーエンコーダーを「YES」と表示されるまで、回します。

Y E S

- 5 ENTボタンを押します。

- ・メモリー書き込みが実行されました。

- メモリーを読み出すには

- 1 MODE▼/▲ボタンを「MEMORY」と表示されるまで、押します。

M E M O R Y

- 2 ENTボタンを押します。

- ・「WRITE」と表示されます。

W R I T E

- 3 ロータリーエンコーダーを押します。
 - ・「READ」と表示されます。

R E A D

- 4 ENTボタンを押します。

- 5 ロータリーエンコーダーを「YES」と表示されるまで、回します。

Y E S

- 6 ENTボタンを押します。

- ・メモリー読み出しが実行されます。

ターンオン・ディレイ機能を使うには

複数台のアンプを接続する場合に、使用します。各アンプの電源が入るタイミングに、時間差を持たせることにより、バッテリー上がりやポップノイズを防止できます。

- 1 MODE▼/▲ボタンを「TURN ON」と表示されるまで、押します。

T U R N O N

- 2 ENTボタンを2回押します。

- 3 ロータリーエンコーダーを回して、ターンオン・ディレイタイムを調整します。

- ・右に回す→ディレイタイムがアップします。
- ・左に回す→ディレイタイムがダウンします。

0.6

- ・調整範囲：0.0～2.0S

- 4 ENTボタンを押します。

SAFE(セーフ)モードにするには

DSP機能の調整のみを行う場合には、SAFEモードをONにします。DSP回路の電源だけがONになり、省電流状態となります。調整後は、SAFEモードをOFFにします。

- 1 MODE▼/▲ボタンをディスプレイに「SAFE」と表示されるまで、押します。

SAFE

- 2 ENTボタンを押します。

- 3 ロータリーエンコーダーをディスプレイに「ON」と表示されるまで、押します。

ON

- 4 ENTボタンを押します。



- 上記の操作によるSAFEモードの設定は、いったん電源をOFFにして、再び電源をONにしてから、有効となります。
- 調整後は、SAFEモードをOFFにします。ON状態だと、音は出ません。

アンプセレクト機能を使うには

複数台のアンプを接続している場合、AMPボタンにより、調整したいアンプを選択できます。

- 1 AMPボタンを押します。
・押すごとに、アンプが切りかわります。



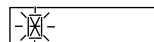
- 複数のアンプと、コントロールセンターを接続している場合、表示がちらついて表示されることがあります。原因としては、コントロールセンターで選択しているIDのアンプが、複数存在している可能性があるためです。この場合は、アンプ側のIDを別々のIDに、設定し直してください。

アンプネーミング機能を使うには

接続しているアンプに、名前をつけることができます。

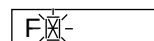
- 1 AMPボタンを押して、名前をつけたいアンプを選びます。

- 2 ENTボタンを押します。



- 3 ロータリーエンコーダーを回して、文字を表示させます。

- 4 ロータリーエンコーダーを押します。
・文字が確定され、次の桁が入力可能になります。



- 5 手順3、4を繰り返して、希望する桁まで入力します。



- 6 ENTボタンを押します。
・アンプネーミング完了です。

F-RIGHT

はじめに

次のことに注意しながら取り付け作業を進めてください。

- 接続は、車の電装系を理解できる知識が必要です。曖昧な理解で作業を進めると車体に重大な影響を与える場合がありますので、専門業者に依頼することをお勧めします。
- 作業には時間がかかります。明るいうちに終了できるように余裕を持って作業してください。
- 希望する取り付け位置に対して、コードの長さが十分にあることを確認してください。
- 組み合わせる製品によって使用できない場合があります。組み合わせる製品の取り付け説明書も合わせてご覧ください。
- 不明な点はお買い上げの店、インフォメーションセンターにお問い合わせください。
- 仕様及び外観は、改良の為に予告なく変更する場合があります。
- 本説明書のイラストは、印刷条件により、実物と印象が相違する場合があります。

1. 取り付ける

- 1 車を安全で平坦な場所に停める。
パーキングブレーキをかけ、イグニッションキー（エンジンキー）を抜く。
おおよそのレイアウトを決め、コードの長さが十分か確認する。

- 2 取り付け場所を設定する。
 - ・ダッシュボードの中央や、平らな場所が最適です。
 - ・マジックテープを使用して取り付ける場合には、水分や汚れのない場所を選んでください。

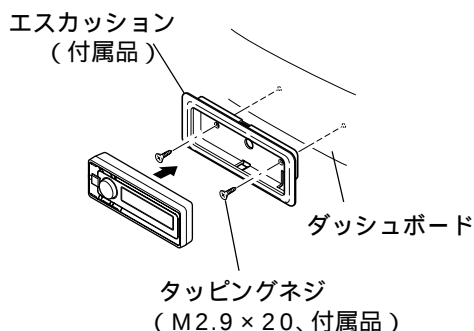


警告

助手席エアバックの近くにコントロールセンターを取り付けしないでください。
エアバックの動作を妨げ、事故・ケガの原因になります。

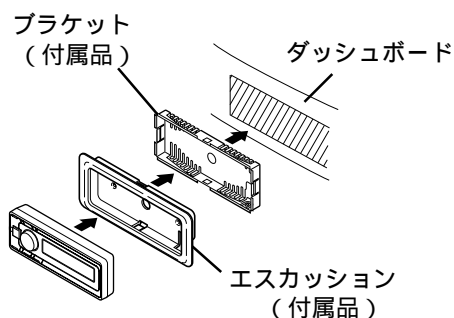
エスカッションを使用して取り付けるには

- 1 エスカッションをタッピングネジ（M2.9×20）で取り付ける。
- 2 コントロールセンターをエスカッションに挿入する。



ブラケットとエスカッションを使用して取り付けるには

- 1 ブラケットが入る大きさに、ダッシュボードに穴を開ける。
- 2 コントロールセンターをエスカッションに挿入する。
- 3 エスカッションをブラケットに挿入する。
- 4 ブラケットをダッシュボードに取り付ける。



マジックテープを使用して取り付けるには

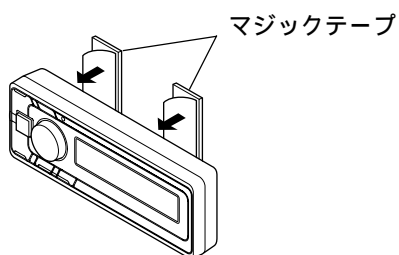
1 マジックテープのうら紙をはがす。

2 コントロールセンターの裏側の両端に、マジックテープを貼りつける。

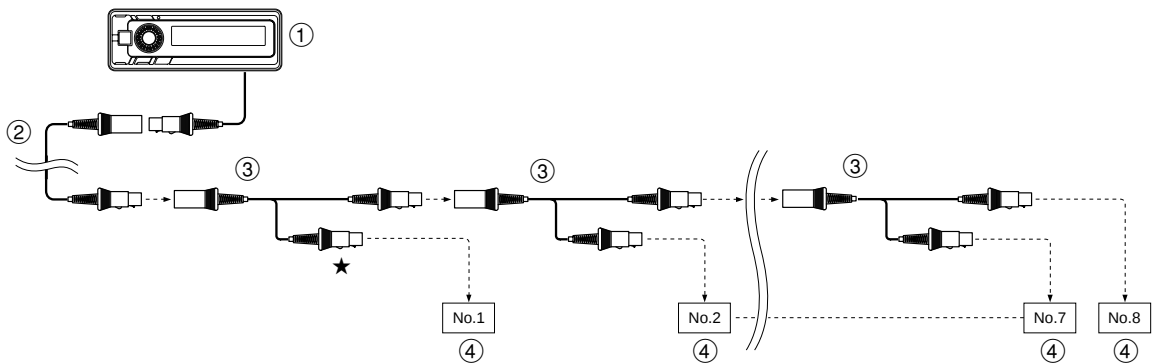
ご注意：コントロールセンターの裏側には、注意ラベルがあります。そのラベルにかからないように、貼り付けてください。

3 マジックテープのうら紙をはがす。

4 貼り付け場所に、コントロールセンターを押し付けて、固定する。



基本接続図



2. 接続する

1

はじめに

- 接続は「奥までしっかり差し込んで」ください。
- 接続しないコードは、コードの端にビニールテープを巻いてください。

2

バッテリー⊖端子を外す。



Memo

- コンピューターが装着されている車は、バッテリーの ⊖ 端子を外すとメモリーが消えてしまうことがあります。
- 一部の車種（外国車など）では、バッテリーの ⊖ 端子を外すと、電装系に不具合が生じる場合があります。詳しくは、ディーラーへお問い合わせください。

3

基本接続図を見ながら、接続する。



注意 正しい接続をする

①コントロールセンター

②延長ケーブル（付属品）

③Yアダプターケーブル

（KWE-060M、別売）

必ず、オスのコネクターの、短い方をアンプに接続してください。また、このコネクタには、延長ケーブル類を接続しないでください。

④アンプ（別売）



Memo

- 接続するアンプのアースは、なるべく1か所の共通アース部から取るようにしてください。
- ②、③の最大接続長について：
 - ・ ①から、最終端のアンプまでは、② + ③ の長さの総和を12m以内におさめてください。
 - ・ 最大接続長が12mをこえる場合は、アンプのコントロールについては、保証できません。

例：上図の接続の場合は、

②、③以外に、2m延長ケーブル（KWE-200M、別売）を1本まで、接続できます。ただし、それ以外には延長ケーブル類を接続しないでください。

- ③、および、2m延長ケーブル（KWE-200M、別売）は、コントロールセンター（RUX-4280）専用です。バスコントロールノブ（RUX-4180、別売）には、対応していません。



Memo

- 車両雑音から守るために
 - ・ アースコードを車体の金属部分に確実につなぐ。
 - ・ バッテリー電源コードとPIN接続コードは離す。
 - ・ 本機や本機からのコードを車両配線から離す。
 - ・ ノイズサプレッサーを使う場合は、できるだけ本機から離す。

3. 確認する

1 コード類を固定する。



警告 コードを挟まないように引き回す。

シートレールなどの可動部に配線を挟み込む、突起部に当たるなどして配線を傷めないようにしてください。断線やショートにより、事故や感電・火災の原因となることがあります。

2 バッテリー⊖端子を接続する。

3 イグニッションキー / カーオーディオ電源をONにして、本機の動作が正しいこと（音が正しく出ているかなど）を確認する。

4 ホーン / ストップランプなどの車両電装品が正しく動作することを確認する。

こんなときには

本機の調子が悪いときは、修理を依頼する前にもう一度、次のことをチェックしてみてください。
それでも調子が悪いときは、お買い上げ店にご相談ください。

症 状	原 因	処 置
RUX-4280を操作できない。	アンプの電源がONになっていない。	ヘッドユニット等の電源を入れ、アンプをONにする。

メッセージが表れたら...

WARM

(INFO DISPモード時)

- 車内温度が高すぎて、出力制限の状態になっている。
(78℃～80℃)
・ 車内温度を常温まで下げる。

HOT

(INFO DISPモード時)

- 車内温度が高すぎて、出力制限の状態になっている。
(81℃～83℃)
・ 車内温度を常温まで下げる。

HI TEMP

(INFO DISPモード時)

- 車内温度が高すぎて、シャットダウン状態になっている。
・ 車内温度を常温まで下げる。

HI VOLT

(INFO DISPモード時)

- 電源電圧が高すぎて、シャットダウン状態になっている。
・ 電源電圧をDC14.4V付近まで下げる。

HI CURR

(INFO DISPモード時)

- 過電流により、シャットダウン状態になっている。
・ 過電流の原因を取り除く。

NO AMP

- アンプを何台が接続している場合、そのうちのいずれかが、電源OFFになっている。
・ 接続を確認し、電源ONの状態にする。

NO CONT

- アンプ本体から、あるアンプの選択操作を行っている場合：
操作の途中で、コントロールセンターから同じIDのアンプを選んでしまった。
・ アンプ本体からの操作を終わらせる。

付属品

品 名	数 量
タッピング・ネジ (M2.9×20)	2
エスカッション	1
ブラケット	1
延長ケーブル (5.5m)	1
マジックテープ	2組
取扱説明書類	1式

規 格

外形寸法
113 (幅) × 39.5 (高さ) × 19 (奥行) mm
重量0.2Kg

- 製品の規格および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。